

**京都大学教育学部・教育学研究科における
教育への評価結果に関する
学生アンケート 報告書
-教育学部版-**

平成21年12月7日 実施

はじめに

国立大学の法人化に伴い、平成 16 年度からはじまった第 1 期中期目標期間の業務にたいする大学評価・学位授与機構による中間評価が平成 20 年度に実施され、その現況分析結果（評価結果）が公表された。その評価結果によれば、京都大学教育学部は、平成 16～19 年度の「**評価結果（研究）**」（大学院も含む）において、研究活動の状況ならびに成果については「期待される水準を上回る」、「Ⅱ．質の向上度」についても「大きく改善、向上している、または高い質（水準）を維持している」という高い評価を、大学評価・学位授与機構からうけた。また「**評価結果（教育）**」においても、大方の項目で「期待される水準にある」と評価され、さらに「Ⅱ．質の向上度」については「大きく改善、向上している、または高い質（水準）を維持している」という高い評価をうけた。

しかし、分析項目Ⅳ「学業の成果」の 2 つの観点のうち、「学業の成果に関する学生の評価」については、「期待される水準を上回る」というように高く評価されながらも、「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、「留年者が多いこと、その事態への対応が不明確」（注）という理由から、「期待される水準を下回る」と評価された。その結果、分析項目Ⅳ「学業の成果」が「期待される水準を下回る」と評価された。

この大学評価・学位授与機構による評価結果を踏まえ、本学部では様々な対応策を実施してきたが、この問題に対する関係者の意見を聞きさらなる改善策を探るため、平成 21 年 12 月に、本学部に所属する 4 回生以上の学部生にアンケート調査を実施した。平成 21 年 12 月現在、教育学部の 4 回生以上の学部生数は 76 名であり、今回のアンケートの回収数は 39 枚（回収率 51.3%）である。

本稿では、アンケート調査の結果から読み取られる問題の特徴について分析しその対応策を明らかにする。4 頁以下には、具体的な数値を掲載しているので参照されたい。自由記述部分については、その内容から個人が特定できる場合もあるため、本稿の分析の中では特徴的なものを紹介するにとどめているが、教員に対してはすべての記述を掲載した資料を配布し、内容と問題点を共有することによってさらなる改善に役立てている。

（注）当初、大学評価・学位授与機構の評価は「留年・退学・離籍者が多い」というものであったが、「退学・離籍者」に関してはそのような事実がないため訂正を要請し認められた。本アンケートは訂正前の評価に基づいて作成されたため、アンケート項目には「退学・離籍者」が含まれているが、本学部で顕著なのは留年者の数であり、退学者と離籍者の数は多くない。

1. 留年者には大きく 3 つのタイプがある

まず、質問【1】『留年・退学・離籍者が多い』理由は何だと思えますか（複数回答可）」への回答率から、理由を分析してみよう。教育学部については、注にも述べたように「退学・離籍者が多い」という事実はないため、この質問項目には不適切な部分もある。しかしながら、学部を卒業できない理由についての認識を広く尋ねたという点では、参考になる回答が得られているものと考えられる。また、この質問は、実際に留年している学生にその理由を尋ねたものではない点にも注意が必要である。複数回答でもあり、回答率がそのまま実態の割合を表しているとは限らない。

質問【1】への回答から、留年者には、大きく 3 つのタイプがあることがうかがわれる。

(A) 専門性志向タイプ：「1. 院浪 (38%)」「2. 就浪 (18%)」「3. 留学 (18%)」

(B) 課外活動に没頭タイプ：「4. 課外活動に没頭 (38%)」

(C) 努力不足・意欲喪失タイプ：「5. 努力不足 (28%)」「6. 学習意欲が喪失 (51%)」

Aタイプの多さについては、「卒業後の進路」について尋ねた質問【4】への回答（「大学院に進学 (48%)」「教職 (13%)」「公務員 (8%)」）でも裏付けられている。特に大学院への進学希望者が半数近く存在していることは、本学部の留年者の問題を考えるうえで大きな特徴であろう。卒業において求められる論文の水準よりも大学院入試の合格に必要な論文の水準の方が高いという現状で、大学院志望の学生が大学院入試を突破できる水準の論文を書けなかった場合、自ら留年を希望する場合がある。さらにまた、留学による留年も決して否定的に評価されるべきことではないだろう。ちなみに平成21年度の学部生の留学者数は2名である。

B・Cのタイプでは、Bタイプの留年者が課外で没頭できることを見出している点ではCタイプの留年者より肯定的に評価できるかもしれないが、学部での学業成就と言う点では、どちらも問題だと考えられる。「その他」として、自由回答の中には「自分で勉強して授業に出ないため」という回答もある反面、「大学に入ることが目的で入ってからの方針がなかった」との声もある。初年次教育の重要性とともに、日常的によりきめ細かい指導の必要性を考えさせる回答である。

2. 教育内容・教員の指導の在り方については、概ね高い評価を得ている

一方、「教員の学生への関わり方」を尋ねた質問【2】において、満足しているとの回答は64%である（「5. 十分に満足している (23%)」「4. 満足している (41%)」）。これは大学院における満足度に比べると低いものの、「2. あまり満足していない (5%)」「1. おおいに不満がある (0%)」の回答が極めて少ないことを考えると、概ね高い評価を得ていると考えられるだろう。

また教育学部専門教育の満足度について尋ねた質問【5】についても、「5. 十分に満足している」「4. 満足している」という回答が多数を占めている（「1. 専門科目カリキュラム、内容など全般 (71%)」「2. 学部専門科目の教員の指導方法等 (69%)」「3. 卒業論文指導 (80%)」）。さらに質問【1】において「7. 教育内容が想定外」を選んだ回答が3%（1名）にとどまっていたことを考慮すると、「教員の指導の在り方」においても、また「教育内容」においても概ね高い評価を得ていると判断できる。

3. 現在の対策については有効性が期待できるが、さらに改善策を検討する必要がある

先に述べた留年者のタイプの差異はすでに理解されており、これまでもタイプAとB・Cについては異なる対策が実施されてきた。

タイプB・Cの留年者への対応としては、ガイダンスと個別相談の充実を図ってきた（もちろんこれはタイプAの留年者にとっても重要なことは言うまでもない）。

まず1回生・2回生については、以前より学級担任を配置し、履修内容のガイダンスを含めた大学生活全般についての相談に対応できる体制を整えていたが、留年者問題への対応として単位修得の不十分な学生にたいする個別指導が新たに強化されている。そのため、今後、これらの初年次のつ

まずきや、その後の学習意欲の減退が原因の留年者は減るものと予想される。

さらにこの間、毎年4月時のガイダンスを徹底しており、単位取得に関しては十分な説明を行ってきた。しかし、質問【1】の「その他」の自由回答に対して、「卒業必要単位に関する説明、理解が不十分で、単位取得計画が立てられない、もしくは誤っていたため」といった声も寄せられていることから、さらに丁寧なガイダンスが求められる。

また以前より教員全員がオフィスアワーを設定し、必要な学生の相談にはいつでも対応できるようにしており、指導の緻密さについては学生たちから高い評価を得てきた。しかし、「明確な方針『こうしたい』とか、知識等に自信とかがない場合には相談に行きづらい」という声もあることから、例えば、系単位でポスドクによる相談対応者を置くといったさらなる措置も考えられる。

また系分属（本学部は3つの系に分かれており、3年次にそれぞれの系に分属する）のオリエンテーションについても、選択の幅を広げるために2つの系のオリエンテーションに参加できるような改善を図ってきた。系分属は3回生からだが、一方で「分系（系分属）する時期が早く、ケアも少ない」という声もないわけではない。しかし、論文指導を充実させるためには、むしろより早期に論文指導のゼミを決定する形にカリキュラムを変更することも考えられる。所属が早く明確になることで研究への自覚も意欲も高まるだろう。この点については検討課題である。

一方、タイプAの留年者については、大学院進学希望者が大学院の定員を上回ることから来る結果ともいえる。ちなみに本学部の修士課程の院入試の倍率は、平成21年度は3.0倍で、平成16年度から21年度までの平均倍率は3.7倍である（本ホームページ「概要」を参照）。「4. 進路指導などの教員による助言、サポート」について、やや低い満足度（44%）にとどまっているところから、大学院への進学志望であっても研究力量が足りない場合には、別の進路の可能性についての知識や情報を教員の側から提供することも考えられる。また現在、院入試の実施日（現在は2月）をより早期に変更することも検討が進んでいる。院入試を早期にして入試に研究論文（卒業論文レベル）の審査を課さない場合、大学院進学後の研究に耐えられる力量を身に付けないまま進学してしまう危険性もあるが、早期に進路が決まれば、学生の進路変更の可能性が広がるという点にメリットが認められる。

既に実践されている改善策についてはすでに一定の功を奏している。平成16年度～19年度より退学者が減少しており、今後さらに改善を図ることで、留年者も減少していくものと期待できる。第2期中期目標期間においては、このような問題点を考慮しながらさらなる教育の改善に勤めていく必要がある。

(1) 実施方法

はじめにを参照

(2) 提出状況

教育学部登録者数 . . . 76名

アンケート回収数 . . . 39枚

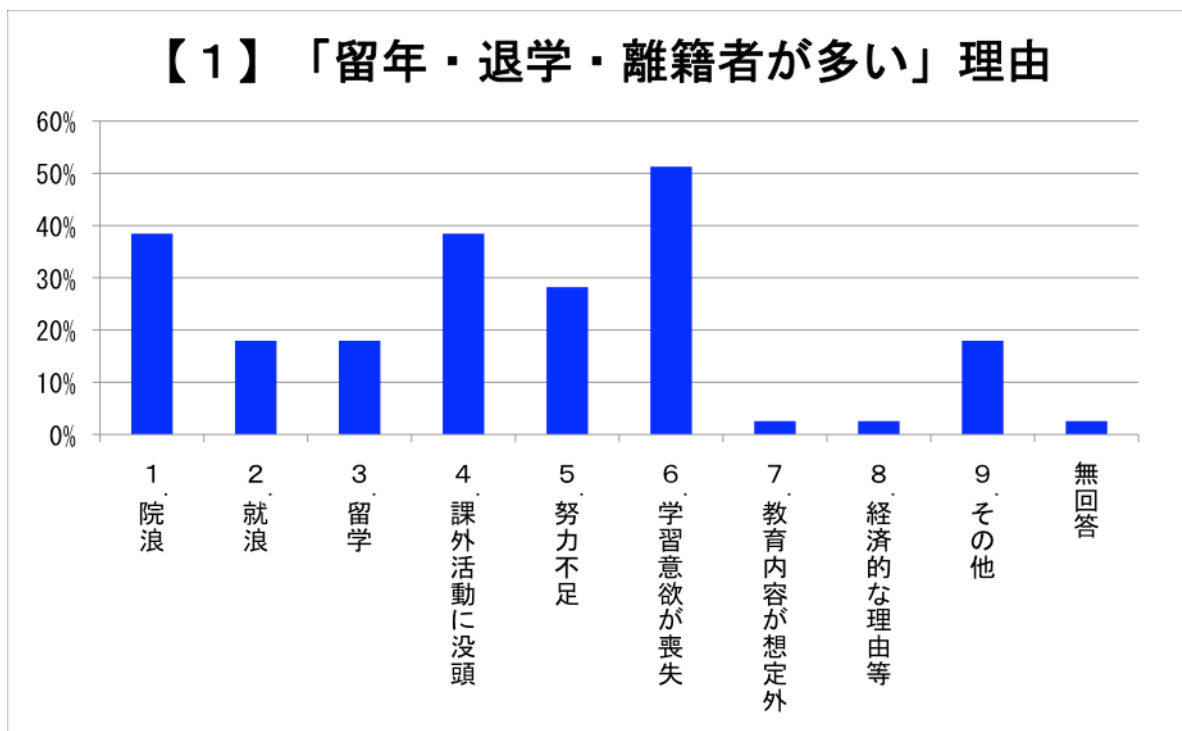
回収率 . . . 51.3%

【1】「留年・退学・離籍者が多い」理由は何だと思いますか（複数回答可）。

1. 院進学のための準備のため(いわゆる院浪)
2. 就職準備のため(就浪)
3. 留学していたため
4. クラブ活動などの課外活動に没頭し、勉学に時間がとれなかった。
5. 努力不足で単位が取得できなかったため
6. 学習意欲が失せ単位が取得できなかったため
7. 教育方針・内容が想定していたものと違っていた
8. 経済的な理由、家庭の事情など学問とは直接関係のない理由のため
9. その他

【1】 「留年・退学・離籍者が多い」理由

	1. 院浪	2. 就浪	3. 留学	4. 没頭 課外活動に	5. 努力不足	6. 喪失 学習意欲が	7. 想定外 教育内容が	8. 理由等 経済的な	9. その他	無回答
回答数	15	7	7	15	11	20	1	1	7	1
回答率	38%	18%	18%	38%	28%	51%	3%	3%	18%	3%

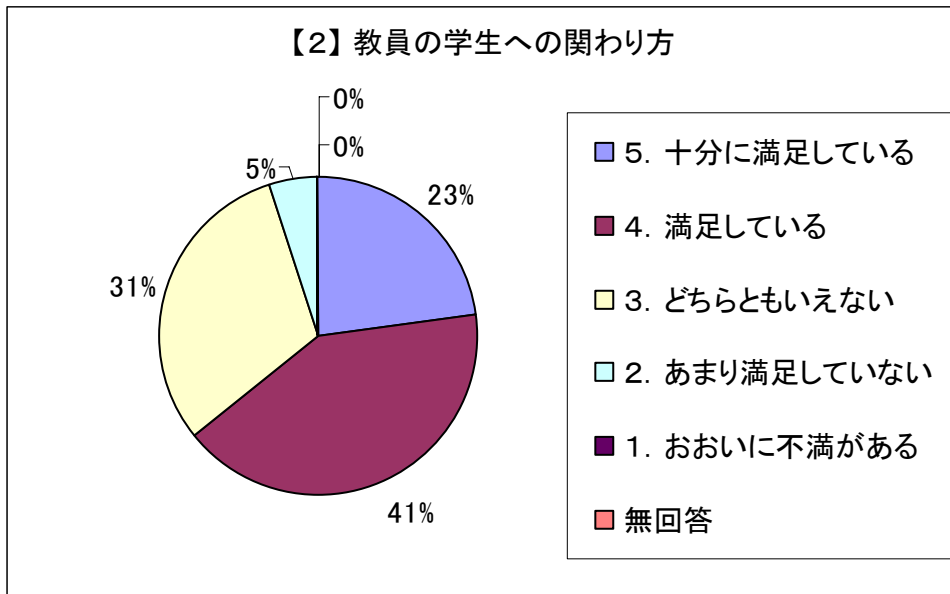


【2】 京都大学では「自学自習」がうたわれていますが、教員の学生への関わり方（教育指導など）について。

- 十分満足している
 満足している
 どちらともいえない
 あまり満足していない
 おおいに不満がある

【2】 教員の学生への関わり方

	5. 十分に満足している	4. 満足している	3. どちらともいえない	2. あまり満足していない	1. おおいに不満がある	無回答
回答数	9	16	12	2	0	0
構成比	23%	41%	31%	5%	0%	0%



【3】【2】で満足していないと答えた方、どのように改善されれば良いとお考えですか？

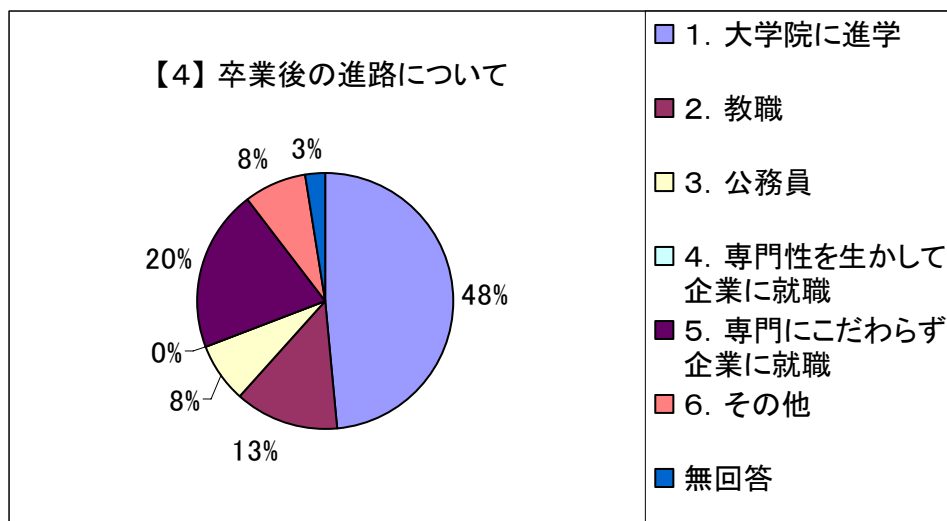
公開に際して省略しました。

【4】卒業後の進路についてお答えください。

1. 大学院に進学したい
2. 教職に就きたい
3. 教師以外の公務員及び公的機関に就職したい
4. 専門性を生かして企業・団体に就職したい
5. 専門にこだわらず企業・団体に就職したい
6. その他

【4】 卒業後の進路希望

	1. 大学院に進学	2. 教職	3. 公務員	4. 専門性を生かして企業に就職	5. 専門にこだわらず企業に就職	6. その他	無回答
回答数	19	5	3	0	8	3	1
構成比	48%	13%	8%	0%	20%	8%	3%



【5】教育学部専門教育についてお尋ねします。

1. 専門科目カリキュラム、内容など全般について
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある
2. 学部専門科目の教員の指導方法・熱心さ・アドバイスの的確さ等について一般的に
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある
3. 卒業論文指導について
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある
4. 進路指導など教員による助言・サポートについて
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある
5. 教務等の事務的なサポート体制について
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある
6. 教育施設・設備について
 十分満足 満足 どちらとも あまり満足 おおいに
 している している いえない していない 不満がある

【5】 教育学部専門教育について(回答数)

	5. 十分に満足している	4. 満足している	3. どちらともいえない	2. あまり満足していない	1. おおいに不満がある	無回答
1. 専門科目カリキュラム、内容など全般	12	16	5	3	1	2
2. 学部専門科目の教員の指導方法等	7	20	7	2	1	2
3. 卒業論文指導について	19	12	4	2	0	2
4. 進路指導などの教員による助言・サポート	7	10	11	9	0	2
5. 教務等の事務的なサポート体制	3	11	10	10	3	2
6. 教育施設・設備について	5	14	5	9	4	2

【5】 教育学部専門教育について(構成比)

	5. 十分に満足している	4. 満足している	3. どちらともいえない	2. あまり満足していない	1. おおいに不満がある	無回答
1. 専門科目カリキュラム、内容など全般	31%	40%	13%	8%	3%	5%
2. 学部専門科目の教員の指導方法等	18%	51%	18%	5%	3%	5%
3. 卒業論文指導について	49%	31%	10%	5%	0%	5%
4. 進路指導などの教員による助言・サポート	18%	26%	28%	23%	0%	5%
5. 教務等の事務的なサポート体制	8%	27%	26%	26%	8%	5%
6. 教育施設・設備について	13%	36%	13%	23%	10%	5%

【5】教育学部専門教育について

